

研究・調査報告書

報告書番号	担当
271	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Rosiglitazone relieves acute ethanol-induced hangover in Sprague-Dawley rats. Sprague-Dawley ラットにおいて Rosiglitazone が急性的なエタノールの酔いを緩和する	
執筆者	
Jung TW, Lee JY, Shim WS, Kang ES, Kim SK, Ahn CW, Lee HC, Cha BS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2006 May-Jun;41(3):231-5.	
キーワード	
Rosiglitazone、エタノール、酔い	
要 旨	
<p>Rosiglitazone はインスリン感受性増強剤である Thiazolidinedione (TZD) 系薬物であり、peroxisome proliferators-activated receptor (PPAR) γ のアゴニストである。TZD は高血糖を治療し、インスリン抵抗性を改善するために広く用いられている。TZD の代謝への影響には PPARγ-retinoid X 受容体 (RXR) 複合体の受容体依存性の活性化と標的遺伝子の転写活性化が介在している。TZD は他にも炎症反応を阻害し、循環器疾患のリスクを減少させる可能性が考えられている。アセトアルデヒド脱水素酵素 2 (ALD2) 遺伝子のプロモーターは PPAR 応答エレメントを含んでおり、ALD2 の発現が Rosiglitazone によって制御される可能性があると考えられる。本研究では Rosiglitazone が ALD2 の発現に与える影響を調べ、エタノールによる酔いの症状への影響を調べた。ラットにエタノール (4g/kg) を注射し、social interaction test を行い、investigation、fighting、crossover、contact などの行動項目について評価を行った。エタノールのみでの投与では、コントロールと比べ、investigation、fighting、crossover、contact のすべての項目で頻度の減少が見られたが、エタノールと Rosiglitazone を投与したものではこの頻度の減少が抑制されていた。また、ALD2 の発現と活性の測定を行ったところ、Rosiglitazone は ALD2 の発現を増加させ、活性も上昇させていた。以上より、Rosiglitazone は ALD2 の発現を誘導し、エタノールによる酔いを軽減することが示唆された。</p>	